# 公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | 児童発達支援センター　みつばすみれ学園 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年12月2日 | | ～ | 令和8年1月5日 |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 14 | （回答者数） | 8 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年12月2日 | | ～ | 令和8年1月5日 |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 1 | （回答者数） | 1 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和7年12月1日 | | ～ | 令和8年1月31日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | （対象数） | 14 | （回答数） | 14 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月3日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 訪問先施設との高度な連携 | 施設の先生方がすぐに実践できる具体的な助言（視覚支援、介助方法の実演）を行い、園での「困り感」を確実に軽減できている点。 | 「施設職員向けミニ勉強会」の提案をし、個別の児童への対応だけでなく、園の先生方が抱える「クラス全体の集団づくり」に役立つ視点を、訪問時の振り返り時間等で短時間レクチャーする機会を設ける。 |
| 2 | 専門性と受容的態度の両立 | 専門的知見を提供しつつ、現場や家庭の状況を否定しない「共感的・伴走的支援」が徹底されており、満足度が極めて高い点。 | |
| 3 | 情報共有の質 | 園での成長を家庭に、家族の意向を園に、と双方向の架け橋となる情報共有がなされている点。 | モニタリング時、保護者の要望が「どのように訪問先施設への助言に繋がったか」という経過を計画書や報告書に明記し、保護者が連携の実感を持てるようにする。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 支援の可視化 | 訪問先で行っている具体的な工夫（使用教材や環境設定）が、保護者にまで十分に伝わりきっていない側面がある。 | 訪問時の活動写真や図解を用いた報告を行い、支援の根拠をより明確に説明する。園で見せた専門的な関わりを家庭でも視覚的に理解できるよう改善する。 |
| 2 | 家族支援情報の浸透 | 事業所が提供している学習機会や情報提供が、一部の保護者にとって「周知不足」となっている可能性がある。 | 家族支援プログラム（ペアトレ・勉強会等）の案内を定例化し、参加のハードルを下げる。<br><br>訪問先施設との振り返り時間をより計画的に設定し、園と事業所の連携効果を保護者へのフィードバックに反映させる。 |